



平成29年度第二回新潟支部研修会が開催されました



平成30年2月17日(土)午後1時より新潟大学医歯学総合病院12階大会議室にて平成29年度第二回新潟支部研修会が開催されました。

まず初めに、JA新潟厚生連小千谷総合病院に勤務し、認定認知症領域検査技師である寺島 健技師より「認知症領域の検査」と題して、脳がどのように変化するか、関与する物質、認知症になりやすい人の特徴や検査技師が関わることのできる認知症領域の検査等の講演をしていただきました。

認知症はアルツハイマー型認知症が55%を占め、他にもいくつかの種類が存在しますが、大脳皮質の萎縮・脳室の拡大・海馬の萎縮などが起こります。生活習慣病や糖尿病、周囲となかなかコミュニケーションをとる機会の少ない方は認知症になりやすいそうです。

検査としては検体検査・心電図・脳波・超音波・脈波・睡眠時無呼吸検査・髄液検査・神経心理的検査など多岐にわたりますが、認知症になると海馬の近くにある嗅覚神経が最初に影響を受け嗅覚が低下するため嗅覚を調べる検査などもあるそうです。これから高齢者がますます増える時代がやってきますが、検査技師としても人としても認知症に対する知識を深めることで自分や家族の認知症予防をし、認知症の方に対しても接し方や理解も変わってくると思いました。



次に、アボットジャパンの高岡 登志彦先生より「平成30年度診療報酬改定の行方とポイント」についてお話していただきましたが、検査関連では検体検査部門で1.5%減、静脈採血手技料として1.2%増、全体としては▲0.3%と予想され大きな変化はないものの、さらに次回の診療報酬改定に向けて取り組むべき課題として検査室の人員を効率よく配置することや、病棟への検査技師業務拡大が重要であるとの事でした。



最後に、新潟県臨床検査技師会 副会長 桑原 喜久男技師より「日臨技の進める臨床検査技師の医療現場における職能向上にむけた講習」についてのお話がありました。

三名の講師の先生方が共通でお話されていたことですが、2025年には戦後の第一次ベビーブームの世代が75歳を迎え超高齢化社会となります。超高齢化社会を目前にし、臨床検査技師が医療の現場で必要とされる職種であるためにはチーム医療にどの様に関わり貢献していくかが重要であり、業務を拡大し検査室だけでなく病棟や、在宅医療へ関われる在り方を考えなくてはなりません。検査説明・相談ができる検査技師育成事業や、検体採取等は業務の幅を広げる第一歩であると考えます。また、平成30年度から3年間かけて、知っておくべき患者心理・患者と家族とのコミュニケーション・ベッドサイド機器管理・薬理・患者移送技術をカリキュラムの骨子とした『医療現場における職能向上のための臨床検査技師育成講習会』が開催される予定となっているそうです。

今回の研修会はまさに今知っておくべきこと、今後の臨床検査技師やチーム医療について大変勉強になる内容でした。お忙しい中、講師を引き受けてくださいました先生方にはこの場を借りてお礼申し上げます。また、当日お集まりいただいた皆様、実務委員に当たられた新潟支部幹事の皆様、お疲れ様でした。

文責 木戸病院 神林

平成30年新潟支部総会



平成30年新潟支部総会が研修会後に同会場にて執り行われました。

木戸病院 味方議長の司会進行のもと、この度はさほど大きな質問・ご意見はなく第一号議案、第二号議案、第三号議案とも承認されました。



昨年2月に新潟支部幹事が新たに選出されてからもう1年が経ちました。

また、気持ち新たに13人の支部幹事で1年間新潟支部技師会活動を盛り上げていきたいと思ひます。

